

第8回セミナー 文化財巡りのご案内

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

日本最大の巨城を支えた江戸城外堀を巡ります。家康時代の喰違見附、家光時代の四谷門と赤坂門の石垣を紹介します。また、外堀周辺の近代化遺産から東京の江戸から明治の歴史を解説します。

※保険加入のため、お申し込みの際は必ずご参加者全員の【氏名】をご記入ください。

◆開催日時 2019年11月16日(土) 13:30~16:00(予定) ※受付開始 13:15から
 ※荒天の場合は中止とし、午前中にメールもしくは電話にてご連絡いたします。

◆集合場所 四谷門(四ッ谷駅麴町口)

◆講師 後藤 宏樹 様(江戸都市史研究家/NHKブラタモリの案内人)
 江戸城や江戸の遺跡発掘や史跡整備を手がけてこられました。

◆開催概要 ※一部予定が変更になる可能性があります。

四谷門<集合>
 ↓
 真田濠
 ↓
 喰違見附
 ↓
 清水谷公園
 ↓
 赤坂門跡と紀州藩麴街邸跡・旧李王家東京邸
 (赤坂プリンスクラシックハウス)
 ↓
 東京ガーデンテラス紀尾井町周辺<解散>



※先着5名様に限り、クラシックハウスのカフェにてお茶席を予定しておりますが、変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

また、お茶代は参加費と別途のお支払となり、後日、ご連絡します。

講師・ご参加者・当会役員でのご歓談の時間となりますので、是非ご参加ください。

◆対象者と募集人数 会員および一般市民 20名程度(先着順とさせていただきます。)

◆参加費 お一人 会員:2,500円/一般:3,000円(室料、資料代、謝礼、雑費等)領収書をご用意しております。
 当会は非営利法人のため、実費等を頂戴させていただきますので、ご了承ください。

◆申込方法 11月12日(火)迄に、下記宛てにお申込みください。
 お申込み後に参加の可否について事務局よりご連絡させていただきます。
 また、お申込み後に参加を見合わせる場合、前日までに必ず事務局へご連絡ください。

FAX 03-6261-6813

第8回セミナー「文化財巡り」参加申込書(月 日)

Eメール info@zaidan-edojo.or.jp

お名前	会員	非会員	メールアドレスまたはご住所	連絡先電話番号	紹介者

※会員・非会員のいずれかに○をご記入ください。

第8回セミナー「文化財巡り-江戸城外堀・東京の江戸から明治-」実施報告

- ◆開催日時 2019年11月16日(土) 13時30分から16時00分
- ◆開催場所 江戸城外堀通周辺
- ◆参加者 15名(会員及び一般市民)

1. 今回の主なルート

13:30集合 四谷門(四ツ谷駅麴町口)
↓
真田壕
↓
喰違見附
↓
清水谷公園
↓
赤坂門跡と
紀州藩麴街邸跡・旧李王家東京邸
(赤坂プリンスクラシックハウス)
16:00解散

当日は雲一つない秋晴れ、晩秋とはいえ歩き続けると汗ばむほどの気候で、絶好の文化財巡り日和となりました。講師は前回に続き、江戸都市史研究家でNHKのブラタモリの案内人としてもご活躍の後藤宏樹さん。今回は日本最大の巨城を支えた江戸城外堀をめぐる、徳川家康時代の喰違見附、家光時代の四谷門と赤坂門の石垣を見て歩くと共に、外堀周辺の近代化遺産を訪れ、東京の江戸から明治の歴史に触れました。後藤先生の楽しくわかりやすいご説明にあつという間に終了予定の16時となりました。

2. 文化財巡り

講師：後藤 宏樹 様(江戸都市史研究家/NHKブラタモリの案内人)

四谷門



四谷門向かいで集合

JRや東京メトロが通る四ツ谷駅の麴町口を出ると右側にある石垣、今回のスタート地点の四谷門です。半蔵門を起点とする甲州道中の出入口で、いわゆる江戸五口のひとつ、寛永13年(1636)に毛利秀就(萩藩)によって枡形石垣が作られ、以後門の構築が行われ、宝永3年(1706)に修復。明治32年(1899)に枡形石垣の一部が撤去されました。後藤先生はその向かい側の史跡案内(道標)を活用しながら説明されました。

真田壕から喰違見附跡へ



四谷見附橋を見る

四ツ谷駅の交差点を渡り、春は桜の名所となる土手に上り、喰違見附跡へ向かいます。途中土手の上で四谷見附橋を眺めながら、後藤先生の説明を受けました。現在の橋は大正時代の初代四谷見附橋に似ていて、見ると橋台はレンガ造りになっています。旧四谷見附橋は多摩ニュータウンに移築されたとのこと。いつもと違う角度から見る四ツ谷駅は明治の東京を今も引き継いでいることを感じさせられました。

土手の右のはるか下にある上智大学の運動場を見ながら進み、その高低差の由来についての説明がありました。このあたりが真田壕で、運動場が濠、その濠を掘って盛土にしたのが土手となっているとのことでした。土手を降りて今は東宮御所になっている紀州藩上屋敷に向かい弁慶濠を見て、清水谷公園に向かいました。



真田壕(上智大学運動場)



紀尾井町へ

紀尾井町の地名の由来は紀州、尾張、井伊のお屋敷があったからだといえます。現在はホテルニューオータニなどホテルやビルが並んでいます。

清水谷公園



大久保公哀悼碑前

清水谷公園は江戸時代の紀州藩麴町邸の一面にあたり、この名称はこの谷から清水が湧き出ること由来します。このあたりで大久保利通が暗殺されたことから、ここに高さ5mを超える大久保公哀悼碑が建てられています。今でも台地の起伏を活かした都会の喧噪を忘れさせる落ち着いた佇まいの公園でした。

弁慶濠と弁慶橋

清水谷公園を出て赤坂見附に向かうと弁慶橋があります。弁慶橋の畔で後藤先生のお話しをお聞きしました。弁慶濠に架かる橋は江戸時代にはなく、明治22年（1889）にそれまで神田松枝町と岩本町との間にあった弁慶橋の旧材を利用して移築された橋が最初で、江戸城普請の大工の棟梁であった弁慶小左衛門が造った橋であることから、弁慶橋と名付けられたといわれます。現在の橋は、昭和60年に改架したコンクリート橋で細部に当初の橋の意匠を継承しています。

赤坂門と紀州藩麴町邸の遺構

東京ガーデンテラス紀尾井町の2階にある広場、ここは赤坂門とその北側に広がる紀州藩麴町邸に該当し、遺跡の発掘調査によって、赤坂門や紀州藩邸にかかわる多くの遺構が発見され、今は赤坂門の石垣が石積みベンチ下に保存され、路面に門の水路を表示し、通路に積んだ石積みは紀州藩邸をめぐる石組下水溝の一部を発掘地点に再現しています。三宅坂の通りにでてみると道路側の石垣にも刻印らしきものを発見しました。現存する弁慶濠に面する石垣は、高さ10m以上の石垣が残っており、その中には黒田家家紋でもある「裏銭紋」の刻印など数多く見られるとのことでした。



弁慶郷に面する石垣



三宅坂から見る石垣

旧李王家東京邸（東京都指定文化財）

最後は旧李王家東京邸です。ここは戦後ランドプリンスホテル赤坂旧館として利用され、現在は、再開発事業によりクラシックハウスとして再オープンして建物は東京都の有形文化財に指定されています。宮内省内匠寮技師の設計で、昭和5年（1930）に建てられイギリスのチューダー様式を基調としています。



クラシックハウス前

今回の第8回セミナーはここで解散。後藤講師の素晴らしい案内と、わかりやすく楽しい説明を聞きながらのあっという間の約2時間半で、江戸城外堀通周辺をめぐり、東京の江戸から明治を知る有意義な「文化財巡り」となりました。

3. クラシックハウスでの歓談

文化財巡り終了後、クラシックハウスにて後藤先生を囲んで歓談をしました。参加者は8人。秋の夕暮れがあっという間に暗くなる中、江戸城、石垣、最近の都市開発など様々な話題で話しが弾んだひと時でした。

4. 参加者アンケート

今回も参加者を対象にアンケート調査を行いました。(回答率100%)

◆今回の文化財巡りについて

アンケート回答者の8割以上から「大変良かった」とのお声をお聞きしました。後藤先生のご説明の元、初めて知ることも多くそれぞれ江戸を感じることができた時間だったようです。

◆当会の活動について

アンケート調査の重要性のご指摘から、当会の活動の拡大・継続、さらに会員や市民が参加して意見交換できる場づくりを求める声がありました。

以上